

みんなで教育を考える

「いばらき教育の日」推進10年の歩み

(パワーポイント・レジメ)

- 01 (表紙) はじめに
- 02 教育の日について・・・「教育の日」制定に係る経緯
- 03 教育の日に関する国の状況・・・「教育の日」制定に係る経緯
- 04 本県の動向(平成10～11年度)・・・「教育の日」制定に係る経緯
- 05 推進4団体を中心に16団体で実行委員会を組織(実行委員長:川口三郎氏)
- 06 写真・・・第1回推進大会開会式・シンポジウムの様子
- 07 平成12年度・第1回推進大会・・・大会の趣旨・「教育の日」の実現を目指す
- 08 写真・・・当時の大会のしおり(第1回～第2回)
- 09 平成13年度・第2回推進大会・・・実行委員長:幡谷浩史氏・初めて大会宣言を決議
- 10 第2回大会宣言・・・みんなで教育を考える「教育の日」の制定を目指す
- 11 平成14年度・第3回推進大会・・・名称を『みんなで教育を考える「いばらき教育の日」推進協議会』に改称・推進20団体・決議(あいさつ・よい行いを褒める・きまりを守る)
- 12 平成15年度・第4回推進大会・・・3分科会と全体会及び講演会により実施
- 13 推進団体構成の変遷・・・4団体→16団体→20団体→36団体へ
- 14 平成16年度・第5回推進大会・・・条例制定記念大会・推進36団体
- 15 写真・・・鳥居康彦先生・服部幸應先生
- 16 「いばらき教育の日」を定める条例・・・平成16年6月16日・茨城県議会で議決
(いばらき教育の日を11月1日、毎年11月をいばらき教育月間とする)
- 17 第5回大会宣言・・・条例の趣旨を踏まえ、県民の積極的な取り組みを期待・県民運動として取り組む・「あいさつを積極的に交わす」「きまりを守り、手本となる」「よい行いに
対し、褒め、励ます」(決議文は、現在まで基本的に継承されている)
- 18 写真・・・大会宣言及び決議の様子
- 19 写真・・・条例制定を周知するためのパンフレット及びポスター
- 20 加盟推進36団体の名簿
- 21 平成17年度・第6回推進大会・・・表彰制度の導入と実践発表の実施
(「あいさつ・声かけ運動」標語の募集)(県教育委員会による優秀教員の表彰)
- 22 写真・・・銚田市立銚田小学校「マナーアップ運動」の実践発表の様子
- 23 写真・・・推進協議会により制作・配布されている「のぼり旗」(決議文・実践項目の啓発)
- 24 平成18年度茨城県教育委員会主催の推進大会・・・記念講演・実践発表・表彰により実施
- 25 平成18年度・第7回推進大会・・・実践発表・記念講演・表彰により実施(茨城県石油業
協同組合による企業、事業所の実践発表が加わる)・地区推進大会が県北で初めて実施さ
れる
- 26 写真・・・優秀標語の表彰・優秀教員の表彰の様子
- 27 平成19年度・第8回推進大会・・・実践発表3事例・記念講演・表彰により実施
推進大会の他に地区大会を2カ所で実施
- 28 写真・・・開会式・表彰された生徒の皆さんの記念撮影の様子
- 29 写真・・・幡谷浩史会長から善行を行った子ども達を表彰する様子
- 30 写真・・・「さわやかマナーアップ・キャンペーン」に取り組む高校生の様子
- 31 平成20年度・第9回推進大会・・・実践発表3事例・記念講演・表彰により実施
- 32 写真・・・第6回推進大会からの記念講演講師の方々
- 33 第10回記念大会のシンボルマークの制定
- 34 平成21年度・第10回推進大会・・・「教育の日」推進10年の歩み・青少年の主張・
パネルディスカッション・記念講演・表彰により実施(青少年の主張は初めて実施)・
推進大会の他に地区大会を2カ所で実施
- 35 (シンボルマーク)おわりに

テーマ 「『家庭教育ブック～すくすく育ていばらきっ子』作成に携わる中で」

パネリスト 中原 弘之

1 ブック活用の研修会参加者によるアンケートの一部紹介

本年4月入学児童を持つ保護者全員に配布して、ブック活用の研修会を行ないました。はじめに、研修会時のアンケートの一部を簡単にご紹介いたします。

(パワーポイント参照)

2 現代社会における家庭教育の諸問題

『家庭教育ブック～すくすく育ていばらきっ子』作成に携わりながら、いろいろな家庭教育問題について勉強させて頂きました。本日は、時間の制約上、次の2点についてご提案させていただきます。

(1) 他を尊重し共生する力の低下という問題

過去の日本社会では、人と人との間でトラブルが起きたとき、「これはどうも、失礼致しました。大丈夫でしょうか？」という言葉が口から出されることが多かったのに対して、最近の日本社会では、「この後始末どうしてくれるんですか？」という内容の言葉を発する人が増えています。

責任と権利という概念を使って言い換えてみますと、昔は「自分の責任」「相手の権利」を重視する姿勢が強かったのに対して、最近では「自分の権利」「相手の責任」を重視する逆転の傾向が強くなったと言えます。

◎他者の立場を尊重し、自分を反省し、共生することの大切さを感じる心を育てなければいけないと思います。

(2) 実体験をする機会の減少という問題

「ねえ、これどうやればいいの？」という子どもの問い掛けに、「今、忙しいからあとで!」とか、「そんなこと、自分で考えなさい!」と素っ気なく断ることが多かった過去と比べて、現在は丁寧に教えてしまう傾向が強くなっています。

「一を聞いて十を知る」は過去にあてはまり、現在は「一から十まで」といった印象です。これは、競争社会を生き抜くためには、少しでも時間の無駄を省いてより多くの知識を経験させようという思いからすすめられてきた傾向です。

操作的、観念的に与えられる知識が増え、子ども自らの実体験を通しての学習が少なくなっています。

苦しみに耐えて辛抱強くやりぬくという「生きる力」を高めなければいけないと思います。

プロフィール

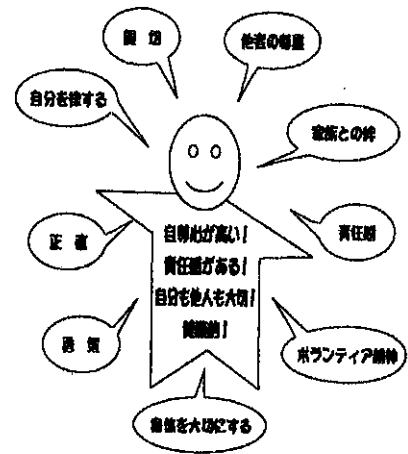
現職・元職：茨城大学、茨城キリスト教大学の教授を経て現在、茨城大学名誉教授、臨床心理士、応用心理士 専門分野：発達・家族・臨床心理学 実践活動：水戸赤十字病院のカウンセラー、茨城いのちの電話理事、県の「教育・子育て電話相談事業」の特別相談員 著書：子どもの発達と家族関係・乳幼児の発達と保育研究 等

1 ライフスキルとは？

私が、13年度より前任校（埼玉県川口市立芝東中学校）で実施した Lions Quest プログラムのライフスキルは、10～15歳までの多感な思春期の生徒を対象に、自尊心の高い、責任感のある、自分も他人も大切にできる健康的な人物として成長する過程で必要な「生きる力」を育てることを目指したアメリカで生まれたプログラムです。青少年が人間関係など日常で体験する様々な困難を上手に乗り越えるために必要なスキルを学び、全課程を通して右記の9つの価値観を身につけ、自尊心（＝セルフ・エスティーム）の高い人間として成長するのを支援するものです。

本プログラムは、文部科学省ホームページ（「総合的な学習の時間」応援団のページ）に推薦プログラムの1つとして掲載されています。

＜身につけたい9つの価値観＞



J I Y D 資料より

2 カリキュラム紹介

7つ単元から構成され、1つの単元に7～8の授業があります。学校の履修の時間数や学年や学習形態によって指導計画を作成できます。単元1-1等は、仲間作りのためのプログラムなので、クラス替えをする場合は毎年教材を変えて実施しますが、単元7については、目標設定のプログラムなので3年生の履修が適します。総合的な学習の時間や道徳等で活用することができます。

3 最近の青少年犯罪の特徴

生徒の生育歴、家庭環境、親子関係等、その原因は様々ですが・・・知的能力に問題はないのに、目の前の問題解決能力に乏しく、感情的に行動に走る傾向があります。

(1) 生徒たちの様子を分析

友人関係に苦慮。小学校時の友人関係のトラブルを解決できないまま中学へ。自己中心的。幼稚な行動。感情のコントロールができない。他の人の心の痛みがわからない。自分の気持ちがわからない。友人・家族からも孤立。特に自尊感情の欠落が、生徒指導に大きく関連していると考えます。

(2) 自尊感情を抱かせる効果

本プログラムは、楽しく学びながら仲間・家族・地域の中で自尊感情を抱くように作成されています。自分の良さ・価値観を見だし、かけがえのない自分であることを認識することによって健全な青少年の育成につながると考えます。

プロフィール

現職：埼玉県川口市立北中学校勤務 3学年 学年主任 技術・家庭科担当
青少年育成フォーラム（J I Y D）教材開発委員

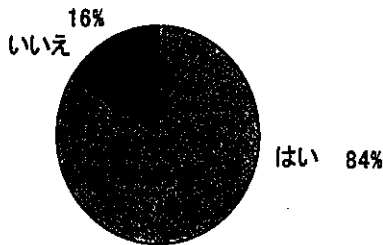
13年度より前任校（川口市立芝東中学校）が Lions Quest プログラムによるライフスキル教育のパイロット校となり、その導入に携わり、17年度より現在の勤務校での導入にも携わりました。両校とも生徒指導に大変苦慮していましたがライフスキル導入後しだいに落ち着き、他の導入校でも同様の効果がみとめられ、全国からの視察、問い合わせ等に対応しています。

執筆：「全国教育新聞」17年に1年間連載 ライフスキル教育について授業紹介
「更生保護」 20年3月号掲載 生きる力を育むライフスキル教育の実践
——健全な青少年の育成のために——

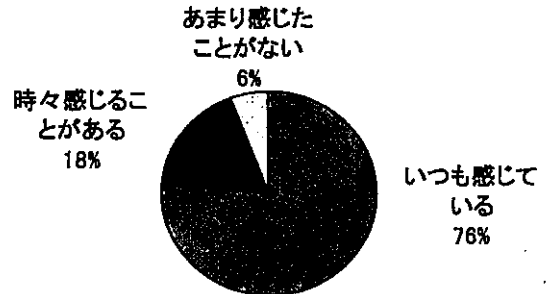
テーマ 「**紡ごう** 愛情のWA(和・話・笑・環・輪) 築ごう 我が家のかたち」

パネリスト 矢口みどり

お子さんに「かけがえのない存在だ」と伝えたことがありますか？



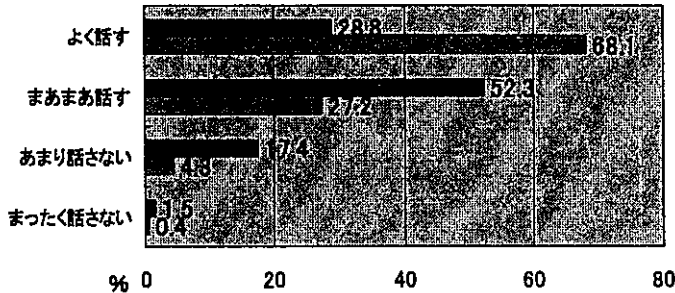
子どもがいることのしあわせを感じたことがありますか？



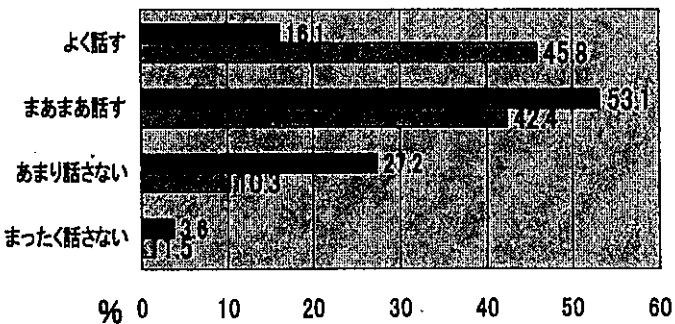
平成20年度県女ネットアンケート結果

あなたは家族とまたは子どもと話をしていますか？
平成20年度中央地区女ネットアンケート結果

■小6児童 ■小6保護者



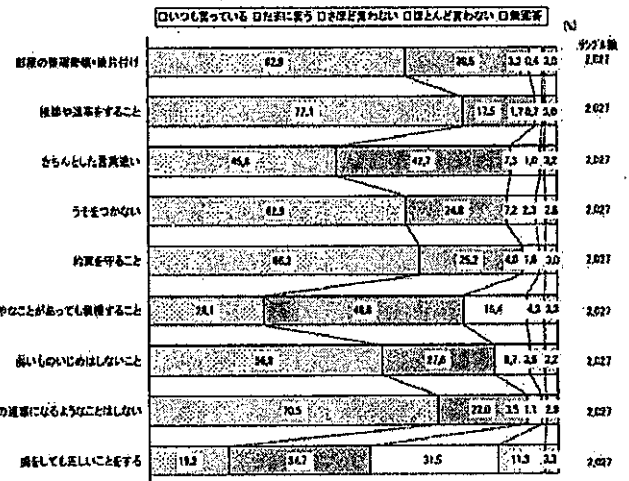
■中2生徒 ■中2保護者



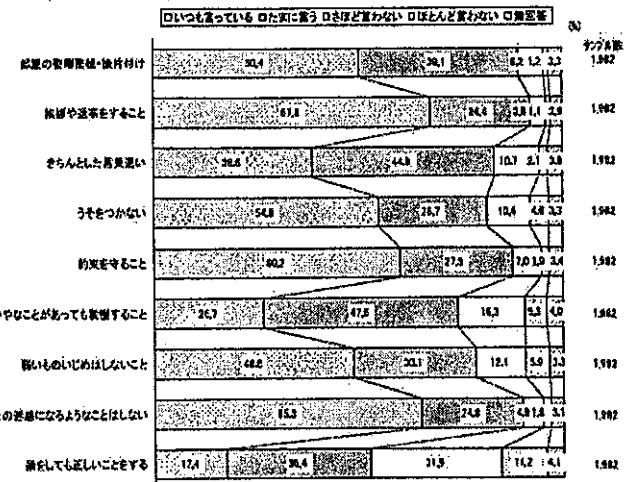
あなたの家庭では、子どもに対してどのようなことを、「きちんとするように」普段から口に出して教えていますか？(一つだけ選択)

日本PTA平成20年度教育に関する意識調査より

〔「きちんとするように」と習教から教えていること<小学生の保護者>〕



〔「きちんとするように」と習教から教えていること<中学生の保護者>〕



プロフィール

- 茨城県PTA連絡協議会副会長
- 茨城県PTA連絡協議会女性ネットワーク委員会委員長
- 茨城県メディア教育指導員
- 水戸市社会教育委員
- 茨城県女性のつばさ連絡会会員
- 小学校、中学校、高校に通う3人の母

35歳の「学力マップ」

「正解主義」で生きる時代(左)から

「修正主義」で生きる時代(右)へ

情報処理力

IEAのTIMSS型学力
 成長社会に重視される学力
 読み書きソロバンの基礎学力
 世間の一般的な認識としての「学力」
 「正解」を導き出すチカラ
 穴埋め試験をやれば正答率で表せる
 フィンランドは1998年以降不参加
 記憶の中に正解を一杯詰め込むこと
 頭の回転のよさ
 要素をできるだけたくさん憶えること

情報編集力

OECDのPISA型学力
 成熟社会に重視される学力
 知識を実社会で応用するためのリテラシー
 国際的な競争力を問う場合の「学力」
 「納得解」を導き出すチカラ
 記述試験をして評価しなければならない
 フィンランドが3回連続世界一になった
 試行錯誤の中で状況にあった解を探すこと
 頭の柔らかさ
 要素と要素同士の関係性に目を向けること

**20世紀
成長社会**

**21世紀
成熟社会**

おぼえる力

単純計算が早い
 漢字をたくさん覚えられる
 コロンブスのアメリカ大陸発見は何年
 1192(いいくに)作る鎌倉幕府
 壁に落書きするのは悪いことだ
パターン認識(短絡的な思考に注意)
 テレビや新聞の報道を真に受ける

つなげる力

文章題、図形問題、グラフの読みに強い
 作文が上手い
 アメリカ大陸発見後に世界はどう変わった
 鎌倉幕府からの武家社会と現代の共通点は
 壁に落書きをするのは自分ならこう考える
 違う見方もあるかもしれない(複眼思考)
 他人の意見を参考に自分の意見を構築する

自動的で素直な吸収

コンビニは便利だから必須だ
 新製品を次々と買う
 環境のためにはエコ製品を買う
 営業マンが勧めたから保険に入る
 いらぬから捨てる
 問題の解決には必ずお金がかかる
 この社会は「正解」じゃない
 この仕事は合わないから辞める
 栄養が足りないからサプリメントを
 毎日ファストフードかレンジでチン
 ブログでただただ独り言を発信する
 消費者として生きる

クリティカルシンキング

便利さを享受するため失っているものは
 いいものを大事に使って知恵で使いまわす
 エコ製品を作るための環境負荷は如何に
 自分のリスクをネットで比較して研究する
 捨てる前に誰かが使ってくれないか探す
 お金を使う前にできることはないか
 この会社でも「納得解」にならないか
 この仕事を工夫しておもしろくできないか
 基本的な生活習慣を変えられないか
 冷蔵庫を覗いて有り合わせの料理を作る
 ホームページを他人のサイトとリンクする
 編集者として生きる(人生は一冊の本)

正解主義で
生きる

修正主義で
生きる

ジグソーパズル 型学力

レゴ 型学力

藤原 和博 氏 — 推薦著書 —

【教育関係者・PTA 向き】

- 1、『人生の教科書[よのなかのルール]』（ちくま文庫）
：[よのなか]科の教科書、真の総合学習とは？ クリティカルシンキング教育とは？ 成熟社会とは？ PISA 型学力を上げるには？
- 2、『公立校の逆襲』（ちくま文庫）
：和田中改革の3年目までのドキュメント
- 3、『「ビミョーな未来」をどう生きるか』（ちくまプリマー新書）
：中学生以上の子と親に
- 4、『新しい道徳』（ちくまプリマー新書）
：ケータイとテレビの影響、学力の本質
- 5、『キミが勉強する理由』（朝日新聞出版）
：小学生の子に読ませれば、自分で勉強するようになる
- 6、そして近著の『つなげる力』（文芸春秋社）が傑作。
：「夜スペ」の裏話も、すべてバラしてしまっていますから。仕事上手の共通点「つなげる力＝情報編集力」のすべて

【経営者・自治体の首長・行政職・ビジネスマン向き】

- 1、『つなげる力』（文芸春秋社）
：橋下知事の改革のバイブルにもなっています。
- 2、『リクルートという奇跡』（文春文庫）
：リクルートという会社の成長と人材輩出の秘密、あの江副浩正元会長や田原総一郎氏が傑作！と評価した本、社員や官僚の「意識改革」には必読の書。